

中 高 合 同

令和 6 年度

教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究構想図	3
III	研究の仮説	4
IV	研究の方法	4
V	研究の内容	5
VI	分析と仮説の検証	9
VII	研究の成果	12
VIII	今後の課題	13

研究主題

合意形成に向けた話合いの工夫 ～デジタルとアナログの良さを生かした取組～

I 研究主題設定の理由

1 研究主題設定の社会的背景

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（中央教育審議会 令和3年1月26日）（以下「答申」という。）では、急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力として、新学習指導要領の着実な実施及びデジタルの活用により、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要」と示されている。

答申では、「個別最適な学び」の実現には「指導の個別化」と「学習の個性化」の充実が必要であるとともに、「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないために、「協働的な学び」を充実させることの重要性が示されている。「協働的な学び」を充実させるためには、探究的な学習や体験活動を通じて、多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重することが必要である。

特別活動は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するために重要な役割を果たしており、「合意形成」に向けた話合いで、デジタル及びアナログの良さを適切に組み合わせ生かす活動が、教育の質の向上につながると考える。また、「令和5年度 教育研究員研究報告書 中・高合同・特別活動」（令和6年3月）の、「Ⅷ 今後の課題」には、「少数意見の取扱い方について、中学校の段階でも、場面に応じた一人1台端末の活用等の工夫を考えていく必要がある。」との記載があり、本研究主題を設定した。

2 中学校・高等学校における特別活動の現状と課題

特別活動の意義として、中学校学習指導要領解説特別活動編及び高等学校学習指導要領解説特別活動編では、「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する」ことを通して、資質・能力を育むことを目指す教育活動と示されている。令和5年度全国学力・学習状況調査（文部科学省）によると、「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか。」という質問に対して、中学校では「よく行った」（29.2%）、「どちらかといえば、行った」（65%）と肯定的な回答が約94%であった。

「中学校学習指導要領解説特別活動」及び「高等学校学習指導要領解説特別活動」には、「特別活動における集団活動の指導においては、過度に個々やグループでの競争を強いたり、過度に連帯による責任を求めて同調圧力を高めたりすることなど、その指導方法によっては、

違いを排除することにつながりかねない。」と示されている。

学級活動及びホームルームでは、一部の限られた生徒の考えだけで動かされ、単なるなれ合いとなっている場合があるなど、特別活動の学習過程として望ましいものとは言えない場合がある。

集団における合意形成では、同調圧力に流されることなく、批判的思考力をもち、他者の意見も受け入れつつ自分の考えも主張できるようにすることが大切である。

3 本研究の視点と育成を目指す資質・能力

本研究では、特別活動の学習過程全体を通して、対面による話し合いを円滑にするために、「話し合いの進め方に関する資料」を作成して活用し、これまでの実践とデジタル機器とを最適に組み合わせ、合意形成に向けた話し合いの工夫が必要であると考えた。

また、生徒一人一人が自分なりの意見や意思をもち、他者の意見を受け入れつつ自分の考えを伝え、全員がしっかりと協議した上で合意形成を図ることを目指した。対面での話し合いを重視しながら、効果的なデジタル機器の活用を模索していく。「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせるということは、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結び付けることであると考え、研究を進めることとした。

【本研究の視点と育成を目指す資質・能力から作成した「評価の観点」】

○知識及び技能

- ・多様な他者と協働する様々な集団活動の意義を理解し、協働して取り組む大切さを理解している。
- ・集団や人間関係をよりよくするための話し合いの進め方や合意形成の図り方などの技能を身に付けている。

○思考、判断、表現

- ・集団をよりよく改善するために、自己や他者のよさや可能性を発揮しながら、合意形成を図ってよりよい解決策を決め、それに取り組むことができている。

○主体的に学習に取り組む態度

- ・多様な他者の価値観や個性を受け入れ、個を尊重することができる人間関係を築こうとしている。
- ・日常の生活や自己の在り方を主体的に改善し、自己理解や他者理解について考えを深めようとしている。

Ⅱ 研究構想図

研究の背景

＜社会背景＞ ・社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0 時代」の到来 ・新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」 『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（中央教育審議会 令和3年1月26日）	＜求められる教育＞ ・デジタル及びアナログ、どちらの良さも適切に組み合わせしていく。 ・全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」が必要である。 『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（中央教育審議会 令和3年1月26日）	＜生徒の現状と課題＞ 一人一人が自分なりの意見や意思をもった上で、合意形成に向けた話合いに臨むようにする力が必要である。 「中学校学習指導要領解説特別活動編」、「高等学校学習指導要領解説特別活動編」
---	---	--

特別活動の目標

「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する」ことを通して資質・能力を育成することを目指す。

「中学校学習指導要領解説特別活動」、「高等学校学習指導要領解説特別活動」

研究主題

合意形成に向けた話合いの工夫 ～デジタルとアナログの良さを生かした取組～

研究仮説

- ・生徒がデジタル機器を活用することで、他者の意見・意思を集約し、思考や情報が整理された自分の意見が出しやすくなり、全員の意見や考えを踏まえた上での合意形成ができるだろう。
- ・対面での話合いを通して、文章だけでは伝えることのできない話し手の意図を理解することにより人間関係形成につながるだろう。
- ・「話合いの進め方に関する資料」を活用することにより、目的意識を共有し、話合いを円滑に進めることで、協働的な学びにつながるだろう。

基礎研究

- ・中学校学習指導要領解説特別活動編
- ・高等学校学習指導要領解説特別活動編
- ・「東京都教育施策大綱」（東京都 令和3年3月）
- ・『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現（答申）～」（中央教育審議会 令和3年1月26日）

実践研究

デジタル機器を効果的に活用した、合意形成に向けた学級活動及びホームルーム活動（話合い活動）の指導計画の作成、実践及び検証

調査研究

学級活動における実態を把握するための調査及び分析「学級におけるアンケート」

Ⅲ 研究の仮説

本研究では「答申」における「4.『令和の日本型学校教育』の構築に向けた今後の方向性」には、デジタルかアナログか、どちらかだけを選ぶのではなく、「教育の質の向上のために、発達の段階や学習場面等により、どちらの良さも適切に組み合わせて生かしていく」という考え方に立つべきである」と示されている。デジタル及びアナログの良さを取り入れることで合意形成に向けた話し合いがより充実した活動になると考え研究仮説を立てた。

デジタルの良さは、デジタル機器を特別活動の学習の一層の充実を図るための有用なツールとして、活用する場面を適切に選択し、効果的に活用できることであると考え。「意見の分類や関係整理を行ったり、他者の意見から自分の意見を修正したりして課題解決に向けた方法に折り合いを付けること」、「発言しにくい生徒がデジタル機器を使用することによって意見が表明しやすくなること」、「集約した情報を整理して可視化すること」などに有効であると考えた。

アナログの良さは、集団における対面による話し合いにより「話し手の目線や表情、声の大きさなどの情報を踏まえ、他者の意見や考えを聞き、気持ちを理解したうえで話し合いを行えるようになる」、「聞き手と対面している状況により自分の意見も伝えやすくなる」などが考えられる。合意形成では対面による話し合いが有効であると考えた。

また、「話し合いの進め方に関する資料」を活用することは、話し合いの目的を理解・確認するために有効であり、話し合いを円滑に進めるための一助になると考えた。

以上のとおり、それぞれの良さを生かすことによって、特別活動における三つの視点である「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」をバランスよく身に付けていくことができると仮説を立てた。

Ⅳ 研究の方法

1 基礎研究

- 中学校学習指導要領解説特別活動編
- 高等学校学習指導要領解説特別活動編
- 「東京都教育施策大綱」（東京都 令和3年3月）
- 「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（中央教育審議会 令和3年1月26日）

2 実践研究

(1) 指導方法の工夫

ア 生徒が他者の意見・意思を共有するためのデジタル機器の活用方法の工夫

中学校では、前時に統合型学習支援サービスを活用し、学年レクリエーションのルール案を集約した。同様に、高等学校では、修学旅行の班決めの方法についてアンケートを実施した。本時の授業でデジタル機器を用いて話し合い、互いの意見を集約して可視化することで、速やかに対面での話し合いに入れるようにした。

イ 生徒が目的意識を共有した上で、話し合いを進められる方法の工夫

「話し合いの進め方に関する資料」(図1)を活用し、生徒が目的意識を共有しながら話し合いを円滑に進め、協働的な学びとなるよう工夫した。

(2) 成果検証の手だて

仮説に基づき実践した特別活動において、合意形成に向けた話し合いの工夫(対面による話し合いの実施、デジタル機器の活用及び「話し合いの進め方に関する資料」の活用)について、アンケートを一人1台端末により実施し、その結果を分析及び成果検証を行った。

V 研究の内容

中学校及び高等学校で検証授業を行った。本時のねらい及び共通の評価規準に基づいて検証授業を実施した。

1 検証授業における評価規準

ア よりよい生活を築くための知識・技能	イ 集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	ウ 主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
①多様な他者と協働する様々な集団活動の意義を理解し、協働して取り組む大切さを理解している。 ②集団や人間関係をよりよくするための話し合いの進め方や合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	①集団をよりよく改善するために、自己や他者のよさや可能性を発揮しながら、合意形成を図ってよりよい解決策を決め、それに取り組むことができている。	①多様な他者の価値観や個性を受け入れ、個を尊重することができる人間関係を築こうとしている。 ②日常の生活や自己の在り方を主体的に改善し、自己理解や他者理解について考えを深めようとしている。

2 本時のねらい

合意形成に向けた話し合い活動をする中で、三つの力を育てる。第一に、様々な意見を比べ合い、まとめていく中で多様な他者を尊重しながら話す力である。第二に、意見を出し合いながら課題を発見し、よりよく改善する力である。第三に、一人一人が自分事として集団の課題に向き合い、主体的に解決できる力である。

3 検証授業 中学校 第1学年 学習指導案

(1) 本時の議題

学級の目標「一人一人の居場所がある学年」に基づき、学級委員に提案する学年レクリエーションを考える。

(2) 指導と評価の計画

時間	対象	活動内容 (◆デジタルを活用した活動、★アナログでの活動)	評価規準
第1時	学級委員	○全員が楽しめる学年レクの企画★	・集団をよりよくするために工夫しているか。
第2時	学年	○学年レクの実施 (学年全員で○×ゲーム) ○全員に事後の振り返りアンケート◆	・集団活動の意義を理解し、取り組んでいるか。 ・集団をよりよくするために工夫しているか。
第3時	学級委員	○アンケートの集約◆ ○「話し合いの進め方に関する資料」を活用して話し合いの目的や進行の確認★	
第4時 (本時)	各学級	○よりよい学年レクのための話し合い活動◆★	・合意形成の図り方を身に付けているか。
第5時	学年	○改善案に基づいて学年レクの実施★	・集団をよりよくするために工夫しているか。

(3) 本時の展開

	○学習内容・活動内容	指導上の留意点	評価規準
導入	1 出欠確認 2 本時の議題の確認 ・「話し合いの進め方に関する資料」を配る。★ ・司会「これから学級会を始めます。今日はこのことについて話し合います。」	・「話し合いの進め方に関する資料」を配布し、話し合いの指標として示す。 ・議題とその設定理由を明確にする。	アー① 議題の意義を理解している。
	題材：○×ゲームのルール（やり方）を学級委員に提案しよう。 目的：「一人一人の居場所がある学年」を作っていくためにどんな学年レクがよいかを考えよう。		
展開	3 比べ合う ・前時のアンケート結果を踏まえてグループ(6～7人)で共有し、班ごとの意見を代表者がデジタル機器に記入して全体に共有する◆★ ・話し合いが目的に合っているものかどうかを確認しながら進める。	・学級委員の画面をスクリーンに示しながら説明する。 ・グループごとに司会、記入の役割を決めておく。	イー① 他者のよい意見を見付けている。
	4 クラス全体での話し合い★ ・各グループから出された意見に基づき、クラスとしての提案内容を決める。	・スクリーンに各グループのまとめを示す。 ・個人のデジタル機器は閉じて、前のスクリーンを見る。 ・挙手が少なければ一度、近くの席の人と話す時間をとる。	ウー① 他者を尊重しながら話し合いができています。
	5 司会による確認・振り返り ・クラスの提案内容を確認し、今日の話し合いについて振り返る。		
終末	6 教師による話し合いの評価	・具体的な場面、発言に触れながら生徒の活動に価値付けをしていく。	

(4) 検証授業を終えて

司会者が、「話し合いの進め方に関する資料」に基づいて司会進行することで、学級の全員で目的に向けた話し合いができた。デジタル機器で事前に意見を集約していたため、自分の意見を出しやすい様子であった。また、1グループ6～7人での話し合いにより、他者の意見が全体に反映しやすい様子であった。しかし、話し合いに入りにくそうな生徒もいたため、グループの人数を4～5人に減らした方がより全員が活発に話せたと考える。

学級会の進め方

日時 月 日 時間目

話し合いの前に

議題・テーマ
議題・テーマの設定理由
今日の話し合いのゴール
決まっていること

話し合いの進行

話し合いの進行	どうやって？
① 説明（ ）分 話し合いの内容、目的を共通理解しよう。先生からも一言もらおう。	
② 意見・考えを出し合う（ ）分 いろいろな意見や考えを出して、みんなで共有しよう。	
③ くらべ合う（ ）分 みんなの意見や考えをくらべて、良い所や課題点を整理しよう。	
④ まとめる（ ）分 「自分も良い、みんなも良い」となるような意見をまとめていこう。	
⑤ 振り返り（ ）分 司会が話し合いの良かったこと、課題点を共有して次回にいかそう。先生からも一言もらおう。	

図1 「話し合いの進め方に関する資料」

4 検証授業 高等学校 第2学年 学習指導案

(1) 本時の議題

修学旅行の目標「一人一人の居場所のある修学旅行」に基づき、活動グループ分けの方法を考える。

(2) 指導と評価の計画

時間	対象	活動内容 (◆デジタルを活用した活動、★アナログでの活動)	評価規準
第1時	修学旅行委員	○修学旅行の目標や目的を共有◆★ ○事前アンケートの内容の精査★	集団をよりよくするために工夫しているか。
第2時	学年集会	○修学旅行の目標や目的を説明◆ ○次回の授業内容の確認 ○アンケート実施★	集団活動の意義を理解し、取り組んでいるか。
第3時 (本時)	ホームルーム	○修学旅行に向けた活動グループの決め方の話し合い◆★	他者と協力して課題解決に向けて取り組んでいるか。
第4時	修学旅行委員	○班の決め方について、学年担任に発表◆	集団をよりよくするために工夫しているか。
第5時	ホームルーム	○決まった方法で班決め◆	合意形成の図り方を身に付けているか。

(3) 本時の展開

	○学習内容・活動内容	指導上の留意点	評価規準
導入	1 出欠確認 2 本時の議題の確認★ 活動グループの目的を踏まえ、一人一人の居場所がある修学旅行にするための班決めの方法を考える。	・使用する統合型学習支援サービスについて説明する。 ・各クラスのアンケートデータは、無記名の状態で PDF 化し、生徒に送付する。	
展開	3 比べ合う ・前時のアンケート結果を踏まえてグループ(4人)で共有して一つの候補にしぼる。◆★ ・理由と、考えられるデメリットを小さくするための改善策について話し合い、候補を一つ選ぶ。 4 まとめる ・2グループ1組(8人)で候補を共有し、全体で5点の案にまとめる。◆★ ・統合型学習支援サービスを用いてクラス全体で共有する。(黒板のプロジェクターを利用) ・これらの案に対して意見がある生徒は統合型学習支援サービスのチャット機能を利用して書き込む。★ ・出された案、意見をもとに修学旅行委員が意見をまとめる。◆★	・多数決で決めない。 ・合意の取れる方法を考えるように促す。 ・目標、目的を達成するための活動グループの決め方について、合意の得られた話し合いができたか確認しながらまとめさせる。 ※この時間のうちに一つにしぼらなくてもよい。	ウー② 自己理解に努めている。 イー① 合意形成を図っている。
終末	5 本時のまとめ ・修学旅行委員のまとめ 次回の委員会に持参する案と意見を確認する。 ・教員のまとめ 次の時間に事後アンケートを行う。	・多数決などの安易な決め方ではなく、他者の意見の重要性を理解させる。	アー① 協働して取り組む大切さを理解している。

(4) 検証授業を終えて

事前学習として修学旅行委員会を4回開き、クラスの全員が修学旅行に向けての目的を共有し、スローガンを決めるなどして、意識を高めていくようにした。スローガン決めにおいては、「話し合いの進め方に関する資料」(図2)を活用し、当日のホームルーム運営がうまくいくよう準備を重ねた。さらに、学年全員に向けて、修学旅行委員の中で出たグループ分けの方法について、それぞれのメリット・デメリットを各自が考え、現段階で最も良いと考える方法について、学年集会後に統合型学習支援サービスを活用し、事前アンケートを入力した。

話し合いメソッド				
合意形成とは、意見が異なるもの同士が意見の一致を図るもの。安易に多数決を行わない。				
係でやる	①本時の議題テーマ			
	②決まっていること			
事前 出し 合う	やること	時間		今回の話し合いに対する注意事項・内容
	個人で考える		統合型学習支援サービスを活用	
	1 本時の議題の説明			
	2 話し合いの際の注意事項			
	3 グループでの話し合い			
	①グループ内での役割分担を決める。		・書記（ICTにまとめる） ・司会進行	
	②個々の意見の共有			
	③ホワイトボードに記入する。			
	4 拡大グループでの話し合い		・2グループごとで合体させて一つの案にまとめる。 ・理由も説明してホワイトボードに記入する	
	5 全体での話し合い			
まとめ	①グループで出た内容の共有			
	②それぞれの意見に対して自分の考を書く			
6	本時のまとめ			

図2 「話し合いの進め方に関する資料」

VI 分析と仮説の検証

1 アンケート結果と質問ごとの分析

- (1) 時期：令和6年9月から10月まで
- (2) 対象：中学校37人、高等学校34人
- (3) 内容：質問1～10で構成。質問1～7の「回答ごとの理由」については、複数回答可である。

- 質問ごとに、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と回答した理由のうち、顕著な傾向がみられた箇所に、網掛けで示している。
- クロス集計した結果を以下に示す。

【質問1】話し合いの目的を理解して意欲的に話し合いに参加できましたか。

(人)

中学校		回答ごとの理由				高等学校		回答ごとの理由			
		デジタル機器の活用	対面での話し合い	話し合いの進め方に関する資料等の活用	その他			デジタル機器の活用	対面での話し合い	話し合いの進め方に関する資料等の活用	その他
よくあてはまる	15	6	8	9	1	よくあてはまる	21	6	17	8	1
ややあてはまる	20	11	14	3	1	ややあてはまる	12	5	10	1	0
あまりあてはまらない	2	1	0	1	0	あまりあてはまらない	1	0	0	0	1
あてはまらない	0	0	0	0	0	あてはまらない	0	0	0	0	0

【質問2】今日の話し合いでは自分の意見を出しやすかったですか。

(人)

中学校		回答ごとの理由				高等学校		回答ごとの理由			
		デジタル機器の活用	対面での話し合い	話し合いの進め方に関する資料等の活用	その他			デジタル機器の活用	対面での話し合い	話し合いの進め方に関する資料等の活用	その他
よくあてはまる	14	5	8	2	2	よくあてはまる	19	4	17	6	0
ややあてはまる	20	12	12	2	1	ややあてはまる	13	4	12	2	0
あまりあてはまらない	3	0	1	0	2	あまりあてはまらない	2	0	0	0	2
あてはまらない	0	0	0	0	0	あてはまらない	0	0	0	0	0

【質問３】他の人の意見や考えを聞いて自分の考えと比べることができましたか。(人)

中学校		回答ごとの理由				高等学校		回答ごとの理由			
		デジタル機器の活用	対面での話し合い	話し合いの進め方に関する資料等の活用	その他			デジタル機器の活用	対面での話し合い	話し合いの進め方に関する資料等の活用	その他
よくあてはまる	21	13	12	4	1	よくあてはまる	26	13	18	7	0
ややあてはまる	15	10	7	1	0	ややあてはまる	8	3	6	0	0
あまりあてはまらない	1	0	0	1	0	あまりあてはまらない	0	0	0	0	0
あてはまらない	0	0	0	0	0	あてはまらない	0	0	0	0	0

【質問４】今日の話合いでは自分の意見をしっかり伝えられましたか。(人)

中学校		回答ごとの理由				高等学校		回答ごとの理由			
		デジタル機器の活用	対面での話し合い	話し合いの進め方に関する資料等の活用	その他			デジタル機器の活用	対面での話し合い	話し合いの進め方に関する資料等の活用	その他
よくあてはまる	15	8	11	2	2	よくあてはまる	22	6	18	8	0
ややあてはまる	14	8	9	1	2	ややあてはまる	11	2	9	1	0
あまりあてはまらない	5	1	1	0	3	あまりあてはまらない	1	0	0	0	1
あてはまらない	1	0	0	1	0	あてはまらない	0	0	0	0	0

【質問５】他の人の気持ちを考えながら話し合いができましたか。(人)

中学校		回答ごとの理由				高等学校		回答ごとの理由			
		デジタル機器の活用	対面での話し合い	話し合いの進め方に関する資料等の活用	その他			デジタル機器の活用	対面での話し合い	話し合いの進め方に関する資料等の活用	その他
よくあてはまる	17	6	16	2	1	よくあてはまる	23	6	17	10	0
ややあてはまる	18	5	11	2	2	ややあてはまる	10	2	10	1	0
あまりあてはまらない	2	1	1	0	0	あまりあてはまらない	1	0	0	0	1
あてはまらない	0	0	0	1	0	あてはまらない	0	0	0	0	0

【質問６】話し合いの内容を理解しながら最後まで主体的に参加できましたか。(人)

中学校		回答ごとの理由				高等学校		回答ごとの理由			
		デジタル機器の活用	対面での話し合い	話し合いの進め方に関する資料等の活用	その他			デジタル機器の活用	対面での話し合い	話し合いの進め方に関する資料等の活用	その他
よくあてはまる	19	9	18	6	1	よくあてはまる	21	8	14	11	0
ややあてはまる	18	6	5	9	0	ややあてはまる	12	5	11	0	1
あまりあてはまらない	0	0	0	0	0	あまりあてはまらない	1	0	0	1	0
あてはまらない	0	0	0	1	0	あてはまらない	0	0	0	0	0

【質問７】全員の意見や考えをしっかりと聞いた上で話し合いができましたか。(人)

中学校		回答ごとの理由				高等学校		回答ごとの理由			
		デジタル機器の活用	対面での話し合い	話し合いの進め方に関する資料等の活用	その他			デジタル機器の活用	対面での話し合い	話し合いの進め方に関する資料等の活用	その他
よくあてはまる	28	17	19	9	0	よくあてはまる	25	11	20	6	1
ややあてはまる	9	5	6	0	0	ややあてはまる	9	1	9	0	0
あまりあてはまらない	0	0	0	0	0	あまりあてはまらない	0	0	0	0	0
あてはまらない	0	0	0	1	0	あてはまらない	0	0	0	0	0

【質問 8】 デジタル機器を使用して良かったと思うことを選んでください。

(人)

中学校					高等学校				
情報の可視化	情報の集約	意見の共有	匿名性	その他	情報の可視化	情報の集約	意見の共有	匿名性	その他
26	16	32	15	0	25	12	23	4	1

【質問 9】 対面で話し合いをして良かったと思うことを選んでください。

(人)

中学校					高等学校				
クラス内の雰囲気をつかめる	身振り手振りから伝わることもある	声の大きさや話し方から伝わることもある	目線や表情から伝わることもある	その他	クラス内の雰囲気をつかめる	身振り手振りから伝わることもある	声の大きさや話し方から伝わることもある	目線や表情から伝わることもある	その他
21	6	21	19	0	24	13	17	22	0

【質問 10】 「話し合いの進め方に関する資料」を活用して良かったと思うことを選んでください。

(人)

中学校				高等学校			
話し合いの目的が理解できた	話がスムーズに進めた	最後まで主体的に話し合いに参加できた	その他	話し合いの目的が理解できた	話がスムーズに進めた	最後まで主体的に話し合いに参加できた	その他
32	10	12	0	25	12	10	2

2 総合的な分析

(1) デジタル機器の活用について

ア 中学校

質問 2、3、4、7、8 から、意見の出しやすさ、他の人の意見や考えとの比較、他の人への意見の伝達において有効であったことが分かる。その理由として、情報の可視化や、統合型学習支援サービスの活用による意見の共有のしやすさが考えられる。

イ 高等学校

質問 3、8 から、デジタル機器の活用について、情報の可視化や意見の共有のしやすさを利点と回答する生徒が多かった。

(2) 対面での話し合いについて

ア 中学校

全ての質問に対する回答の結果から、自分の意見の出しやすさや、他の人の気持ちを考えながら話合うこと、話の内容を理解することに有効であったことが分かる。その理由として、対面での話し合いにおいては、話し方や目線などから全体の雰囲気をつかめることなどが考えられる。

イ 高等学校

質問 1 から 7 までの質問における回答ごとの理由について、「対面での話し合い」が、最も多かった。相手に伝えることや、相手の気持ちを考えることに関して、対面で話合うことが有効だったと考えられる。質問 9 の「対面で話し合いをして良かったと思う」ことの理由については、クラス内の雰囲気がつかめることや、目線や表情からつかめることが多かった。

(3) 「話し合いの進め方に関する資料」(図1、図2)の活用について

ア 中学校

質問1、6、10から、話し合いの目的を理解し、主体的に参加することに有効な資料であったと考えられる。その理由は、目的や話し合いのゴールが示されており、司会者が学級会の進め方を確認しながら話し合いを進行することに有効であったことが考えられる。

イ 高等学校

質問6、10に対する回答の結果から、話し合いの内容を理解しながら最後まで主体的に参加することについて有効であったと考えられる。

これらのことから、話し合いの場面では、対面を重視しつつ、意見集約・共有、情報の可視化などについて、デジタル機器の活用は効果的であったと考えられる。また、話し合いの目的や進行を共通理解するためには「話し合いの進め方に関する資料等のような補助的な資料も有効であった。『人に伝える』方法としてはアナログである対面での話し合いが効果的で、『自分に伝わる』方法としてはデジタル機器の活用が話し合いの一助となることが確認できた。

Ⅶ 研究の成果

1 デジタル機器の活用

生徒がデジタル機器を活用することは、情報の可視化及び意見の共有に効果的であった。検証授業において、前時のアンケートで全員が意見を出し、本時で話し合いをしたことで、意見を比べ合うことが容易になった。他者の意見や考えを可視化したことで情報が整理され、自分の意見が出しやすくなり、全員の意見や考えを踏まえた上で合意形成につながった。

2 対面での話し合い

生徒が対面での話し合いを行うことで、クラスの雰囲気、声の大きさや話し方、目線や表情などから、他の人の気持ちを考えることに効果的であった。また、意見をしっかり伝え、話し合いの内容を理解しながら最後まで主体的に参加することによって、考え方や関心、意見の違い等を理解した上で認め合い、互いのよさを生かし、人間関係をよりよく形成することができた。

3 「話し合いの進め方に関する資料」の活用

生徒が「話し合いの進め方に関する資料」を活用することは、話し合いの目的を理解することに効果的であった。また、その目的を学級活動及びホームルームの司会者を通して共有し、話し合いを円滑に進めることで、協働的な学びにつなげることができた。

VIII 今後の課題

デジタルとアナログについて

研修などを通じて、教師が必要な資質・能力を身に付けられる環境を実現し、生徒の一人1台端末を前提とした教育を実現しつつ、ICT活用指導力の向上に向けた教育の充実が必要である。

円滑な話合いのためには、クラス全員が顔をあげて前を向くタイミングと、デジタル機器に注視するタイミングが混在しないように指示を明確に出す必要がある。

高等学校においては、8クラス同時に同様の授業を実施し、学年で目的を共有することにつながった。継続するためには、学年全教員の共通理解と、見通しをもった指導計画が必要である。

これらをより身に付けさせていくためには、小学校から高等学校までの学級活動及びホームルームに対して見通しをもった指導計画と系統的な実践が必要である。

令和6年度 教育研究員名簿

中高合同・特別活動

学 校 名	職 名	氏 名
江戸川区立松江第五中学校	教 諭	井 形 義 紀
小平市立小平第三中学校	主 任 教 諭	井戸沼 梨 絵
東村山市立東村山第二中学校	主 任 教 諭	力 丸 仁 孝
東京都立石神井高等学校	主 任 教 諭	西 雄 樹
東京都立石神井高等学校	主 任 教 諭	轟 万由子
東京都立田柄高等学校	主 任 教 諭	◎福 田 智 子
東京都立国立高等学校	主 任 教 諭	矢 野 満智子

◎ 世話人

〔担当〕東京都教育庁指導部指導企画課

指導主事 石渡 大輔

令和 6 年度
教育研究員研究報告書
中高合同・特別活動

令和 7 年 3 月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320—6849